

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32510

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00808

研究課題名（和文）学習者主体型ラーニング・コミュニティにおけるリーダー育成カリキュラムの開発研究

研究課題名（英文）Developing a Leadership Curriculum for Student-led Learning Communities

研究代表者

WATKINS 聡子 (Watkins, Satoko)

神田外語大学・言語教育研究所 (Self-Access Learning Center) ・准教授

研究者番号：90837965

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、教育機関が学生の主体的かつ能動的な学びの機会を増やし、学習者オートノミー（学習者が自身や学習過程を深く理解し、学びに責任を持つ能力）を促進することを目的とし、学生主体型ラーニング・コミュニティの普及と、それを担う学生リーダー育成コースの開発を実施した。具体的には、1) 研究代表者の教育機関にて「他者のオートノミーを支援するコミュニティリーダー育成コース」の実践研究、2) 国内教育機関におけるニーズ分析、3) 国外（ブラジルパラ国立大学）の学生主体ラーニングコミュニティの視察を実施し、総括として、コースにおける理論と教材を本にまとめた (Watkins & Hooper, 2023)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、「個別最適な学びと協働的な学びの実現」として、児童を主体とした深い学びや、個々の興味関心の探求と他者との協働を通じた、学習者自らが学ぶ力の育成が求められているが（文部科学省，2021）、国内においてそのような教育の例は限られている。本研究では、興味や目標を共有する学習者がコミュニティを運営し、学習言語を活用しながら協働するという、上記教育の実例にあたる学生コミュニティリーダーの育成と、それに伴う理論検討と教材開発を実施した。そのような研究は、言語教育の場に限らず、今後学習者主体、かつより包括的な教育の普及に貢献できるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to develop a leadership curriculum and train student leaders who provide autonomous and prosocial learning opportunities for other learners through their learning communities. In the three years, we conducted activities related to 1) autonomy-supportive leadership course implementation and development at the principal researcher's institution, 2) needs analysis at a Japanese educational institution, and 3) on-site observation of student-led communities at the Federal University of Para in Brazil. This research culminated in the publication of a course book based on the theories and materials developed through the studies 1)-3) above (Watkins & Hooper, 2023).

研究分野：外国語教育

キーワード：学習者オートノミー 自律学習 ラーニングコミュニティ 学生リーダーシップ アドバイジング 協働学習 実践共同体 学習者エンパワメント

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2021 年の中央教育審議会の答申では、「個別最適な学びと協働的な学びの実現」として、児童を主体とした対話的な深い学びや、個々の興味関心の探求と他者との協働を通じた、学習者自らが学ぶ力の育成が提起されたが(文部科学省, 2021b)、国内においてそのような教育の例は限られている。一方、言語教育において、「学習者自らが学ぶ能力」とは、「学習者オートノミー(学習者が自身や学習過程を深く理解し、学びに責任を持つ能力)」(Dam et al., 1990; Holec, 1981)として知られ、本研究代表者が所属する大学の自律学習施設と自律学習研究所では、学習者オートノミーを育成するため自律学習スキルトレーニング(個々のニーズや目標・興味関心の分析、目標を達成するためのリソースやストラテジーの選択、個々の学習計画の作成と実践、学習効果や学習過程の評価と内省、情緒コントロール、等)が授業内外で実践され、研究されていた(e.g., Watkins et al., 2014; Watkins, 2015; Mynard et al., 2017)。さらに、研究代表者は、自律学習における協働に着目し、興味や目標を共有する学習者が自律的にコミュニティを運営し、学習言語を活用しながら協働するという取り組みと、その活動による学習者の基本的心理欲求(自律性、有能感、関係性)(Ryan & Deci, 2017)の充足に関する研究を行っていた(Watkins, 2022)。そのような取組みは異例であり、本研究にて、コミュニティ活動を担うオートノミー支援的な学生コミュニティリーダーの育成に関する研究を実施することは、この言語教育の場に限らず、今後の学習者主体かつより包括的な教育の普及に貢献できると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、教育機関が学生の主体的かつ能動的な学びの機会を増やし、学習者オートノミー(学習者が自身や学習過程を深く理解し、学びに責任を持つ能力)を促進する教育方法として、学生主体型ラーニング・コミュニティの普及と、それを担う学生リーダー育成のためのコース開発を目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、下記3つの研究と調査を実施した。

(1) 研究代表者の教育機関における他者のオートノミーを支援するコミュニティリーダー育成コースの実践研究 (Watkins, 2021)

リーダーがコミュニティ参加者のオートノミーを支援するスキルを育成するための15週間の自律学習コースを実施した。その受講経験において、(a)コースの内容はリーダーの考え方やリーダーシップスタイルに影響を与えたか、(b)与えた場合その内容とは何か、を分析した。

初回コース受講者5名の半構造型個別面接(45分-60分、日本語)と記述式リフレクション(英語)にてデータを収集。面接とリフレクションの質問は同内容で、別の形式と時期に行うことによるトライアングレーションが目的である。インタビューデータは逐語録を作成し、リフレクションと共に NVivo を使用し解釈的アプローチ (Heigham & Croker, 2009) によりコード化した。その個々の分析内容を、研究参加者に確認し信頼性を高めた。次に5人のコードを照らし合わせ、共通の概念を識別した。分析結果は、コースの編集に利用され、次の学期に別の学生リーダーのトレーニングに活用され有効性が試された。

(2) 研究分担者の教育機関におけるニーズ分析 (Hooper & Watkins, 2023)

2022年から追加した研究分担者 (Hooper) と研究代表者 (Watkins) が協働にて、Intentional Reflective Dialogue セッション (アドバイジングスキルを使用した意図的な対話と内省) (IRD; Kato & Mynard, 2016) を実施し、Hooper がマネジメントに関わる新設の自律学習施設における、オートノミー支援的學生リーダーと學生コミュニティの成長と発展について内省的な分析を行った。

(3) 国外 (パラ国立大学) の學生主体ラーニングコミュニティの視察

ブラジルパラ国立大学自律学習センターを訪問し、施設ディレクターや運営學生のインタビュー、研究会とコミュニティミーティングへの参加を通し、当施設における学習者主体ラーニングコミュニティの、1) 有効かつ持続可能である要素、2) 學生コミュニティリーダーの役割、3) コーディネーターが行なっている學生支援について調査した。

4. 研究成果

「研究代表者の教育機関における他者のオートノミーを支援するコミュニティリーダー育成コースの実践研究」により、シェアド・リーダーシップ¹ (石川, 2019)、基本的心理欲求充足支援の概念、講師とのアドバイジングを介した意識的内省の習慣化が、リーダーの考えや行動に影響を及ぼした3つの主要な要素であると分かった。まず、コース受講以前は、受講者全員が「リーダーはコミュニティにおける全決定権や責任を持ち、コミュニティの誰よりも有能な存在」というリーダー像を意識しており、プレッシャーを感じていた。しかし、様々なリーダーシップの手法を学ぶことで、自身とコミュニティに適したリーダーシップスタイルを自覚し自信を得ることができた。また、リーダーシップをコミュニティ内で共有(シェア)することで、参加者の基本的心理欲求充足を促せることを実感し、そのために他者に頼る姿勢やアドバイジングスキルを活用する姿が見られた。次に、基本的心理欲求の概念は、コミュニティをどのように良くしていくかという基軸となり、コミュニティの方針や問題における具体的な対策に繋がった。さらに、コースの構成である1) 新しい理論の学び、2) コミュニティでの実践、3) 意識的内省、4) 評価と次週の計画、という各週の経験学習サイクル (Kolb, 1984) をコース受講者は効果的であったと評価した。特にアドバイザーによる質問により、コミュニティについて深く考えることが習慣化され、メタ認知の高まりや、コミュニティに対するオーナーシップとリーダーとしての自信に繋がった。それらの内容は、2021年 JASAL 2021 National Conference にて発表し、同年論文を発表した (Watkins, 2021)。

「研究分担者の教育機関におけるニーズ分析」の協働的な内省的分析では、包括的かつ向社会的なコミュニティの発展に貢献する平等主義的な空間を作り出すために、Hooper は、自身 (自律学習施設マネージャー) と學生リーダー (自律学習施設のスタッフ) とのパワーダイナミックスの均衡化に焦点を当て、Watkins は學生リーダーの個性の認識や自身の可能性と自己発見の促し等、個人的な絆を築くことの重要性を考察した。分析内容は、Hooper and Watkins (2023) として発表した。

¹ コミュニティ参加者誰もがリーダーシップを発揮している状態。

上記研究に加えて、ブラジルパラ国立大学の学生主体ラーニングコミュニティの視察の調査内容から得た理論と教材は、Watkins and Hooper (2023)として本にまとめ、出版した。

引用文献

- Dam, L., Eriksson, R., Little, D., Miliander, J., & Trebbi, T. (1990). Towards a definition of autonomy. In T. Trebbi (Ed.), *Third Nordic Workshop on Developing Autonomous Learning in the FL Classroom*. University of Bergen. http://www.warwick.ac.uk/go/dahla/archive/trebbi_1990
- Heigham, J., & Croker, R. A. (2011). *Qualitative Research in Applied Linguistics: A practical introduction*. Palgrave Macmillan.
- Holec, H. (1981). *Autonomy and foreign language learning*. Oxford, UK: Pergamon Press.
- 石川淳. (2019). シェアド・リーダーシップ. 中央経済社.
- Hooper, D., & Watkins, S. (2023). Collaborative reflection: Nurturing student leadership in self-access centres. *Autonomy*, 83, 8–11.
- Kato, S., & Mynard, J. (2016). *Reflective dialogue: Advising in language learning*. Routledge.
- 文部科学省. (2021). 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ~ 全ての子供たちの可能性を引き出す, 個別最適な学びと, 協働的な学びの実現 ~ (答申). Retrieved September 2, 2022, from https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf
- Kolb, D. (1984). *Experiential learning: Experience as the source of learning and development*. Prentice Hall.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2017). *Self-determination theory basic psychological needs in motivation, development, and wellness*. The Guilford Press.
- Watkins, S., Curry, N., & Mynard, J. (2014). Piloting and evaluating a redesigned self-directed learning curriculum. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 5(1), 58-78.
- Watkins, S. (2015). Enhanced awareness and its translation into action: A case study of one learner's self-directed language learning experience. *Language Learning in Higher Education*, 5(2), 441–464. doi:10.1515/cercles-2015-0021
- Watkins, S. (2021). Becoming autonomous and autonomy-supportive of others: Student community leaders' reflective learning experiences in a leadership training course. *JASAL Journal*, 2(1), 4–25.
- Watkins, S. (2022). Creating social learning opportunities outside the classroom: How interest-based learning communities support learners' basic psychological needs. In J. Mynard & S. Shelton-Strong (Eds.), *Autonomy support beyond the language learning classroom: A self-determination theory perspective* (pp. 109-129). Multilingual Matters.
- Watkins, S., & Hooper, D. (2023). From student to community leader: A guide for autonomy-supportive leadership development. Candlin & Mynard ePublishing.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 WATKINS Satoko	4. 巻 2(1)
2. 論文標題 Becoming autonomous and autonomy-supportive of others: Student community leaders' reflective learning experiences in a leadership training course	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JASAL Journal	6. 最初と最後の頁 4-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hooper, D. & Watkins, S.	4. 巻 83
2. 論文標題 Collaborative reflection: Nurturing student leadership in self-access centres.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Autonomy	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Watkins, S, & Ubukata, H
2. 発表標題 神田外語大学セルフアクセスセンター活動と展望
3. 学会等名 東洋大学人間科学総合研究所 2021公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 WATKINS Satoko
2. 発表標題 Training autonomy-supportive leaders in a self-access center
3. 学会等名 JASAL 2021 National Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Watkins, S. & Hooper, D.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Candlin & Mynard ePublishing	5. 総ページ数 79
3. 書名 From student to community leader: A guide for autonomy-supportive leadership development	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	HOOPER Daniel (Hooper Daniel) (50837987)	白鷗大学・教育学部・講師 (32204)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------